



# 青年団が奉仕の汗 崖松キャンプ場を清掃

▲キャンプ場管理人とともに

青年団では、団活動の一つとして「地域に奉仕すること」を掲げています。少い団員でもこの目標だけはなんとかがんばろうと、毎年、海岸や道路の清掃を続けています。今年も去る7月18日の日曜日、早朝から、村の崖松キャンプ場に集合、清掃奉仕しました。村内外から訪れるキャンパーたちから、気持よくキャンプを楽しんでもらおうと、ひとかかえもある石を掘り起し、雑木を切りはらい、除草するなどして、午前中タプリー奉仕活動をしました。管理人の藤田幸一さんも「おかげできれいになりました。やっぱり若い力ですね」と感謝していました。ありがとう青年団のみなさん

▶女性団員も……



▲昨年の村民体育祭(剣道)

- ▽とき：十月五日、十日、十七日
- ▽ところ：村民体育館
- ▽資格：村内に在住、在勤する者
- ▽種目：野球、テニス、銃剣道、空手道、剣道、卓球、バレーボール、バドミントン、ゲートボール
- ▽表彰：上位三位まで(参加者全員に参加賞)
- ※詳しくは、「公民館だより」をご覧ください。

村民体育館一般開放日

9月4日(土)
5日(日)
11日(土)
12日(日)
15日(水)
(午後6時30分まで)
18日(土)
19日(日)
23日(木)
(午後6時30分まで)

- ▽一位：和納六区チーム
- ▽二位：岩室子ども会Aチーム
- ▽三位：金池子ども会チーム
- ▽三位：北野子ども会チーム
- 夏季親子ソフトボール大会
- 八月二十二日 村民野球場
- ▽一位：和北チーム
- ▽二位：西中チーム
- ▽三位：ポパイチーム
- (和納四区、十二区、高橋)
- ▽三位：岩室チーム

## さわやかスポーツ

天高く馬肥ゆる秋——最高のスポーツシーズンの到来！  
あなたもスポーツでさわやかな汗を……  
問い合わせは公民館(☎④四四四)へ

## 高齢者スポーツ教室

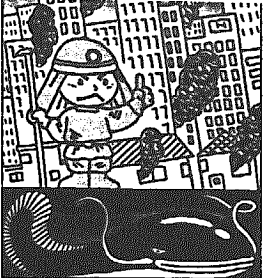
点に運動を展開します。また子どもには「だいたい」ぶ、でももう一度、右左のローガンの下、子どもたち一人一人が自主的に交通ルールを守り、正しく安全な交通行動がとれるよう、家族みんなできめ細かな話し合いをしましょう。

▽とき：九月七日、二十一日  
午前九時～十一時  
▽ところ：村民野球場(雨天の場合は役場協体体育館)

## 第七回 村民体育祭

第一回 壮年野球大会  
八月八日 村民野球場

# 地震で怖いのは火事だ 〈9月1日は防災の日〉



過去の例を見ても、大きな地震のときは必ずといっていいほど火災が発生しています。そして、地震その

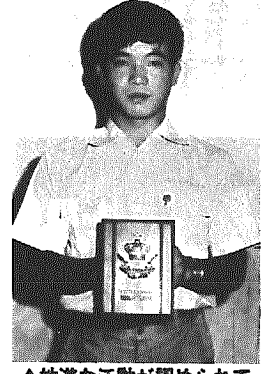


▲約1時間半でこんなにも…以外と多い道路脇のごみ

先月十一月、岩中生徒会「あすなろ会」が学校周辺の道路の清掃奉仕を行いました。毎年夏休みに行っている生徒会の自主事業で、今年も約四百人の生徒が各班に分かれ約一時間半、成果はごらんとお喜びのこみの山、道路脇のあき缶の多いのにはみんな閉口……今月二十一日から二十七日までは「環境衛生週間」です。みなさんもあき缶ポイ捨てなどしないように……

## 「優良賞」受賞

### 岩室村4Hクラブ



▲地道な活動が認められて

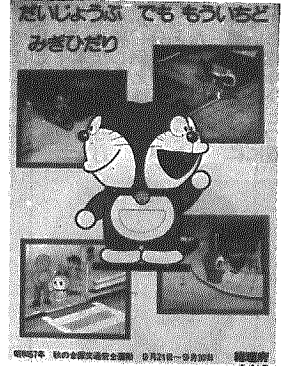
去る7月22日から3日間、佐渡の相川を中心に第22回県農村青年技術交換大会が行われ、当村から4Hクラブを代表して小池和浩さんが参加。みごと演説部門において「優良賞」を受賞しました。これを機会に一層の活躍を期待します。4Hクラブで活動したい方は、小池和浩宅(☎②415)へ。

ものによる被害よりも火災による被害のほうが大きいことが分かります。約十万人の死者を出した関東大地震(大正十二年、マグニチュード七・九)も、火災が発生しなかったら、あれほどの大惨事にならずに済んだといわれています。地震が起こったら火事を出さないよう、また、火事になっても初期のうちに消し止めることが何より大切です。

大揺れの最中には消火できなくても、第二・第三の機会が残されています。そのチャンスを逃さず、火を出さないための行動をとることが大切です。▽大揺れの前の小さな上下動(初期微動)を感じた段階で、早目に火の始末をします。▽火災は、その時の状況によって異なりますが、火元から周囲の可燃物(カーテン、ふすまなど)へさらに壁板から天井へと燃え移るまでには三〜五分、一分程度で取戻り、それから消火しても遅くはないので、あきらめず消火に当たります。

# 秋の全国交通安全運動

9月21日→30日



▲マンガの人気者「ドラエもん」ももういちどみぎひだり!!正しく横断歩道を渡ります

▽石油ストーブによる火災は、出火後二分程度以内ならば、ほや程度で消火できることが実験で分かっていますので、あわてず確実に消しましょう。△火は元から断つ▽グラツときたとき、初めの揺れが行動の自由を奪うほどのものではないときは、火の始末を先にすることが出来ます。しかし、いきなり激しく揺れるときは、テーブルや机など丈夫な家具の下に身を寄せ、しばらく様子を見ます。揺れが収まって行動できるようになったら、大声で「火を消せ!」と叫ぶこと。自分自身を冷静にするきっかけになるばかり

か、隣近所への呼びかけにもなります。使用中のガスこんろなどガス器具は元栓を閉め、石油ストーブはコックを閉めて消し、電気器具類はコードを抜きます。△頼りになる隣近所▽大きな地震が発生すれば、公共施設も被害を受け、一九番をダイヤルしても消防車が到着できないことも考えられます。そのためにも、最悪の場合を想定した自己防衛策を立てておく必要があります。ふだんから隣近所と話し合っておき、いざというときは一致協力して消火に努めることが大事です。